

八月の詩

雨の冠

坂東 里美

雨の冠を被った人が

笛を吹きながら

通りの角を曲がってくる

「あめー あめー

ほっぺたの落ちる美味しいあめー」

家々のドアが開き

子どもたちが顔を出す

「七色のあめはいらんかねー」

色とりどりの傘が開き

雨の冠の後に続く

空は賑やかなお祭り行列

(「雨模様」から)